6 本時の学習指導

(1) 目標及び評価規準

- ・個人や班の課題を理解し、練習場所やメディアを上手く活用しながら、集団技の精度を高めることができる。
- ・各自が仲間の悩みや喜びに気付いた言葉かけや補助ができるようになり、成功した場面では共に喜びを分かち合える。
- ・周囲の安全を十分確保して、練習や準備・片付けができる。

(2) 主体的学習を可能にするメディア活用の視点

- ・動画や仲間のアドバイスから課題を把握し、模範の映像やアニメーションから動きを修正しようとする。また、仲間へのアドバイスが意見交換へと発展できるようになる。

(3) 目指す「確かな学力」

「各自の課題を発見する力」「主体的に課題を解決力」「仲間の喜びや苦しみを分かち合えるようなコミュニケーション能力」

(4) 準備物

マット、デジカメ6台、PC6台、ホワイトボード2台、スクリーン、プロジェクター1台

(5) 学習指導過程

学習活動・内容	生徒の意識の流れ	教師の評価と支援 評価基準 メディア使用時の留意点及び支援
<p>1 用具を準備する。</p> <p>2 準備運動をする。 ・スクリーンの動きに合わせて行う。 ・前時までの単技を各班で復習をする。</p> <p>3 集合、挨拶、健康の確認をする。</p> <p>4 課題について話し合う。 ・休み時間や前時に各自がまとめた課題を班員で確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで早く用具を出そう。 ・ケガをしないよう映像に合わせてしっかり動いておこう。 ・基本の単技をしっかり練習するぞ。 ・失敗している動きは動画で見よう。 ・早く集合し大きな声で挨拶するぞ。 ・休み時間に動画を見て気づいたことを発表しよう。 ・今日のポイントをどこにするかなあ。 ・役割分担も決めておこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手際よくできているか指示をする。 ・プロジェクターの音声や映像がきちんと出ているか確認する。 ・すぐ主運動に移れるようしっかりできているか声をかける。 ・つまずいている動きは再度PCで確認させる。 ・PCからすぐ見られるよう巡回指導する。 ・見学者や体調不良者に指示をする。 ・連続技の課題がチームの実態にあっているか確認する。 ・班内での役割分担が上手くできているか確認する。 ・動きのタイミングや手のつき方からヒントを見つけるよう指示する。
<p>動きを合わせ集団技の精度を高めよう</p>		
<p>5 集団演技づくりに取り組む。</p> <p>(1) 班のマットで繰り返し練習する。</p> <p>(2) 前時に撮影した動画でも確認する。</p> <p>6 本時のまとめをする。 ・気づいたことを発表する。</p> <p>7 整理・補強運動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは合わせ技の復習だ。 ・上手く合わすためにはどうすればいいのかな。 ・動画からヒントを見つけよう。 ・気づいた事をメモ書きしてみんなに伝えよう。 ・ヒントを参考に練習してみよう。 ・できそうな気がしてきたぞ。 ・助言のおかげでできそうだ。 ・助言したことが成功につながったぞ。よかった。 ・気づいたこと、できるようになったことをみんなで話し合おう。 ・友達の変化を発表しよう。 ・体力を高めよう。 ・体を十分にほぐそう。 	<p>各班が映像から課題を見つけ、仲間と課題解決の練習に取り組んでいるか。</p> <p>A：練習内容や手順を決めて取り組める。</p> <p>B：課題を発見するために見るポイントを決めことができる。 着手や回転・起きあがるのタイミングが合っているかに着目させる。</p> <p>班のつまずきポイントを動画や観察から発見し、見つけたポイントをすすんで伝えているか。</p> <p>A：つまずいているポイントを伝え、練習方法を一緒に考えられる。</p> <p>B：付箋紙に気づいた事を書き、班のアドバイス用紙に貼ることができる。</p> <p>ずれている動きに焦点を当て、どの程度ずれているか知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の助言から気づいたことやヒントになったことを発表させる。 ・助言からできるようになったことを発表させる。 ・特に痛みが出そうなところを十分にほぐすよう声かけをする。